

琵琶湖・淀川の未来を見つめる情報誌

BY BLUE

Vol.
9

2001
AUTUMN

特集

琵琶湖・淀川
水質浄化共同実験センター
Biyocenter

誌上

成果発表会

BYQRレポート

琵琶湖・淀川の

渇水状況

第3回

世界水フォーラム



We Love BIWAKO

一人ひとりの熱いメッセージが、今、びわ湖に届けられます！

第9回世界湖沼会議の開催に向け、当機構も参画して広く皆さんに応募を呼びかけた「びわ湖へのラブレター」。

全国各地から2500件を超えるメッセージが届けられました。

一枚一枚が、びわ湖の豊かさと美しさを次代へ引き継ぐ大きな力となっていくことでしょう。



お寄せいただいたラブレターは、世界湖沼会議期間中、会場内に掲示し、一部の作者の方には意見発表もお願いしました。

淀川水系に潤いを与え続ける琵琶湖は、
なくてはならない宝物です。

(奈良・野村剛弘さん)

私が琵琶湖にしてあげたいのは、こみを減らすこと。

(滋賀・雨川加奈さん)

青田風 吹き行く渡はて(に)竹生島

(岐阜・室 永二さん)

びわ湖を世界一、いや地球の美しい湖にしようではないか！

(滋賀・辻本修土さん)

途中下車 びわ湖の水と手をつなぎ 旅の寄り道心穏やか

(愛知・近藤すみれさん)

いくつもの恋の形 くり返しくり返し見てきた湖

(滋賀・さき子さん)

50余年前、生まれて初めて見た琵琶湖の美しさは
まるでパラダイスでした。

(東京・稲田了思さん)

あれから半世紀 どうかも二度目の美しい姿に。

(東京・稲田了思さん)

びわ湖と交わりながら生活している人々の心のよりのとら
「母なるびわ湖」そのものです。

(滋賀・清水光夫さん)

一度だけ見たびわ湖、広くてとてもきれいで

(北海道・久保田 恵さん)

立ちたままポーっとながめているしかありませんでした

(兵庫県・太田淑子さん)

生きているから変化しないのは無理だけど、どうかどうか
この先もずっとあなたがいてくれますように。

(滋賀・野本律子さん)

出身地の石川県への行き帰りの度にびわ湖をみて、

(兵庫県・太田淑子さん)

その美しさ、雄大さに何度も感激し、ほうとしたものです。

(岐阜・伊藤博子さん)

夏雲の 行くや琵琶湖は かぎりなく

(岐阜・伊藤博子さん)

見ているだけでも心が魅了されて、帰りたくない！

(三重県・山本展子)

琵琶湖・淀川

水質浄化共同実験センター

Biyocenter

【誌上】成果発表会

●日時 9月20日 ●会場 びわ湖ホール

特集

特別講演

生物多様性からみた琵琶湖の生態系保全 西野麻知子(滋賀県琵琶湖研究所総括研究員)

発表プログラム

- 1 実験センターの概要と成果
- 2 深池型施設におけるヨシ帯浄化実験
- 3 琵琶湖岸におけるヨシ植栽実験
- 4 浅池型施設における植生浄化実験
- 5 多自然型水路における生態系調査
- 6 土壌浄化施設における土壌浸透浄化実験
- 7 自然循環方式浄化実験
- 8 琵琶湖型実験池におけるひも状繊維接触材方式浄化実験
- 9 水路型施設における不織布接触材方式浄化実験

- 田井中善雄(琵琶湖・淀川水質保全機構)
 春木三三男(国土交通省琵琶湖工事事務所)
 大村朋広(水資源開発公団琵琶湖開発総合管理所)
 今井崇(滋賀県湖南地域振興局)
 中村超(国土交通省琵琶湖工事事務所)
 和田桂子(琵琶湖・淀川水質保全機構)
 三井光彦(琵琶湖・淀川水質保全機構)
 馬場玲子(琵琶湖・淀川水質保全機構)
 堀野善司(琵琶湖・淀川水質保全機構)

Biyocenter見学会

成果発表会の翌日には、Biyocenter見学会が開催され75人が参加。各実験施設を見学し、水質浄化のメカニズムを体験しました。



琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター(愛称・Biyocenter)は、国土交通省近畿地方整備局、滋賀県、水資源開発公団関西支社と当(財)琵琶湖・淀川水質保全機構の4者が共同で運営・管理を行っているフィールド実験施設。

ここでは平成9年開設以来、約50件にわたる実験が行われてきており、さらに琵琶湖・淀川水系のみならず、全国の河川や湖沼の水質浄化の研究機関や事業関係者との交流や情報発信拠点としての機能充実を進めてきました。

去る9月20日には、当センターの第2回成果発表会が開催され、特別講演のほか、ヨシや土壌などを利用した水質浄化実験の最新の成果発表やBiyocenterの見学会が行われました。

ここでは成果発表会の内容をピックアップして、BY BLUEをご覧の皆さんにお届けします。

「生物多様性からみた

琵琶湖の生態系保全」

特別講演

西野麻知子氏(滋賀県琵琶湖研究所総括研究員)

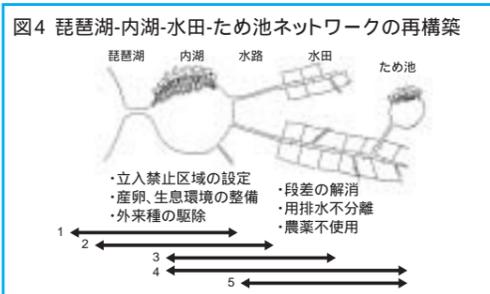
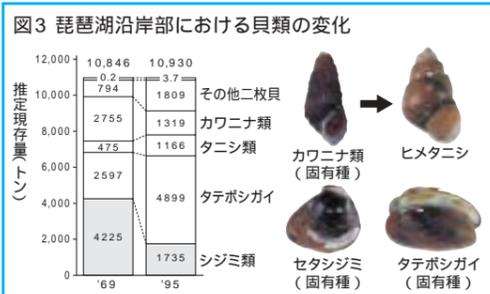
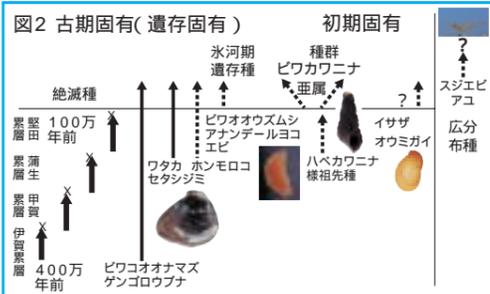
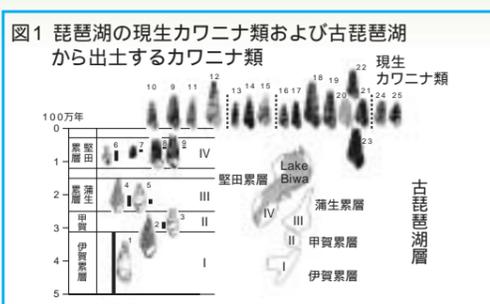


<プロフィール>
1982年より滋賀県琵琶湖研究所勤務。
国土交通省淀川水系流域委員会琵琶湖部会委員、
滋賀県環境影響評価審査会委員などを兼任。
専門は陸水動物学。
共著に「世界の湖」「ユスリカの世界」
監修に「滋賀の水生動物図解ハンドブック」等

多様な生物をばくむ琵琶湖

世界中に周長が1㎞以上ある湖沼は2万以上あると言われていますが、そのほとんどが過去1万年以内に生じた湖です。しかもこれまでに非常に長い寿命を持った湖があり、古代湖と呼ばれています。琵琶湖もその古代湖のひとつです。古代湖に共通していることは湖の歴史が非常に古く、生物多様性が豊かで、そしてたくさんの固有種がすんでいることです。

現在琵琶湖からは1,000種あまりの動植物が記録されています。そのうち動植物プランクトンが約480種、魚は約60種、水草も約60種、貝や昆虫その他の底生動物が大体400種、また



水の表面にすむものが約10種、さらに寄生虫も30種ほど報告されています。琵琶湖の固有種は魚と貝に多いという特徴があり、魚で4分の1が固有種、貝の55%が固有種です(図1)。

琵琶湖の周囲には古琵琶湖と呼ばれる湖が40万年前から数十万年前まで別々の時期に大きく分けて4つの湖として存在していました。その中でどのように固有種が進化してきたかを見る、新しい湖が生じるたびに古い固有種が絶滅し、それぞれの湖に固有の新種が誕生してきたのです。現在の固有種のうち、祖先種の化石が40万年前から出土するのは、フコオオナヌメとシジミ類です。ゲンゴロフナも化石は確認されていませんがDNAの

研究から40万年前に祖先種がいたと考えられています(図2)。

しかしほかにどの固有種も100万年前の堅田累層の時代に進化した種が現在まで生き残ったか、あるいは現在の琵琶湖が生じた後に進化したと考えられています。前者にはヤマトシジミ、イケチヨウガイなどが、後者の代表として、フコオオナヌメの多様な種群を構成するカニナナ類があげられます。またフコオオナヌメのように氷河期の遺存種と考えられる種もいます。我々は固有種をひとくくりに考えがちですが、このように固有種それぞれが特有の歴史を持っているわけで、固有種の保全を考える際にはそれぞれの種の歴史や生態を踏まえ

た上で、どういふふうに保全していくかを考える必要があります。固有種成立の必要条件としては、隔離された環境であること、競争種や捕食者が少ないこと、あるいは種構成に偏りがある分類群や生態的地位の生物が非常に少ないこと、そして長期にわたって安定した環境が持続したことがあげられます。逆に、外来種のように強力な競争相手や捕食者が現れたとき、固有種は危機的な状況におかれることになります。

琵琶湖の生態系にどんな変化が...

琵琶湖の沖帯では1960年代以降、生物生産は約2倍に増えましたが1980-90年代に大幅な増加はなかつたようです。しかし、植物プランクトンの種組成が変化し、藍藻が増加する傾向にあります。一方、北湖の深い湖底では、長期的に水温が上昇傾向にあり、湖底直上水の年最低溶解酸素濃度が低下する傾向にあります。湖底の生物にも変化がみられ、1990年代に入ってから硫化水素をエネルギー源として利用する硫黄細菌チオオロチカが出現し、沿岸性の動物が侵入・繁殖するようになり、これらの変化は湖の富栄養化と地球温暖化の両方の結果だと考えられ、今後、湖底直上水の低酸素化がさらに進むのではと懸念されます。

沿岸部でも変化が生じています。1969年と

1995年の間での貝類の変化をみると、巻貝では多くの固有種を含むカニナナ類が減少し、ヒメタシが増えていることがわかりました。一方、二枚貝ではタテボシガイが増えてシジミ類が大きく減っています(図3)。

このような変化の原因はいろいろ考えられますが、一番関連があると考えられるのは、底質の変化です。この25年の間に泥質の湖底が14倍も増えた。方、砂泥地が3分の1に減りました。砂質や岩石質の湖底も減りました。このような底質の変化は、単に湖が富栄養化した結果ではなく、主に底質の風化だと考えられます。さらには、河川改修やダム建設により湖への流入河川からの土砂供給が減ったことや、農地等からの濁水流入も底質の変化を促したと考えられます。

魚類の変化をみると、アユ以外の魚類漁獲量が減少を続けています。長期的には、内湖の減少やほ場整備によって在来魚類の産卵面積が減少したことが大きく影響しているといえるでしょう。それに加えて1992年以降、琵琶湖の水位操作規則が変更され、「1科魚類の産卵期が短縮した」とことや、産卵場所や仔稚魚の生息面積が減少したことも、漁獲量減少に拍車をかけたと指摘されています。

また沿岸部の魚類の変化で忘れてならないのは、ブラックバス、ブルーギルといった外来種の存在です。現在この2種は漁獲対象となっていないませんが、果が予算をつけて年間約180トンも捕獲しています。これはアユ以外の魚類漁獲量の約10分の1で、琵琶湖本来の捕食性の魚であるハシロヘビ、フナのかつての最大漁獲量に匹敵する量です。

これら外来種の数が増え、固有種の存続を脅かすほどになってきているのです。

生物多様性保全を考える

本来の自然とは何か、この問いは難しい設問ですが、この考え方を手つかずの自然があつて、それが様々な人間活動によって徐々に破壊され、現在の姿となったと見ることが出来ます。その一つとして、理想的には本来の自然に復元することが望ましいわけですが、現実には完全復元するのは困難です。したがって、折り合いをつけよう

け元の自然に近い状態に戻すことを目標とせざるを得ない、ということだ思います。ですから生態系保全にあつては、新たな生態系を創出し、その地域の本来の自然に如何にして近づけるかを目標とすべきです。その地域の本来の自然とは何なのかをもう一度問いかけたうえで、それに近づける努力が必要となるのです。

水位が上下するだけが変わってしまいましたが、また琵琶湖の水位そのものも明治38年の洗堰建設以来、100近く減少し、湖の面積が減少しています。したがって現状のままでは、生物の生息場所を増やすことは困難になってきています。今後はいかに在来の魚類をはじめとする生物が生息可能な場を確保するか、というのが課題になってきます。

幸い琵琶湖には級河川だけで100本、余りの級河川も入れると400本、その他にもたくさんの水路が血管系のように琵琶湖の周辺に広がっています。このつながる水路のネットワークを使って

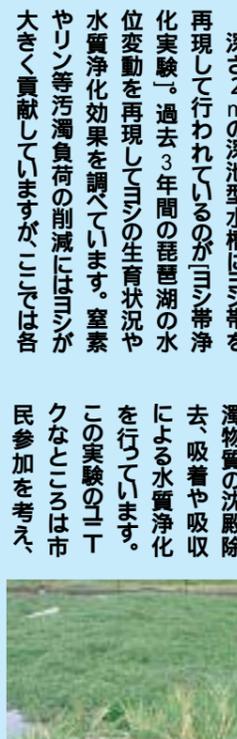
生物の生息面積の拡大、とくに魚類の産卵・仔稚魚の生息面積拡大をはかる。そのときに内湖をうまく使うことを考え、いくが必要があると思います。いかに、琵琶湖・内湖・水路・水田のため池をネットワークで考え、水系のネットワークを再構築していくことが重要です(図4)。

Bioセンター誌上見学会

今回の成果発表会では、Bioセンターで行われているさまざまな実験の成果が詳しく報告されました。共同実験センターという名のとおり、ここでは日々、地域や企業、学術機関などが英知を出し合い、琵琶湖、淀川の水質保全のための研究・実験が行われています。

植物による水質浄化

琵琶湖の南湖に流入する葉山川の河口部にあるBioセンター。約25,000㎡の実験フィールドではさまざまな実験・研究が行われています。深さ2mの深池型水槽「リッジ」を再現して行われているのが「リッジ」浄化実験。過去3年間の琵琶湖の水質浄化を再現してリッジの生育状況や水質浄化効果を調べています。窒素やリン等汚濁負荷の削減にはリッジが大きく貢献していますが、ここでは市民参加を考へ、



生育過程で、どの部分に窒素やリンを蓄えているのかといったことも分析しています。

一方、浅い水槽で行われているのは「植生浄化実験」。クレンソウやミントといった有用植物(食べられたり、香りが良い、花が美しいなど有用性のある植物)を栽培し、汚濁物質の沈殿除去、吸着や吸収による水質浄化を行っています。

この実験の「リッジ」は市民参加を考へ、

土壌を利用した水質浄化

土壌の吸着能力による水の浄化実験を行っているのが「土壌浄化実験」施設。セメントの数ある実験施設の中で、浄化効率の高いのがこの土壌浄化施設です。これまでの実験で水質浄化に最も効果的だったのが赤玉土。この土は栃木県から搬入したもので、リンを吸着する能力が非常に高いのだそう。その結果は既に草津川と北川の合流部で建設された土壌浄化施設でも活かされています。

市民による刈り取りが自由なこと、水を浄化して生育した後、植物たちは市民によって刈り取られ、利用されます。また、植物は肥料に有効利用されています。ここでの調査結果は、既に守山川の浄化施設に建設された浅池型植生浄化施設でも活かされています。

太陽エネルギーを利用した水質浄化

当センターで日々異なる影を放っているのが「太陽エネルギー」を利用したひも状接触材方式浄化実験「装置」。ソーラー発電を利用して水をくみ上げ、ひも状繊維に接触させて浄化する「リッジシステム」です。

沼や入りくんだ湖は水が滞留しやすく、植物プランクトンが増加します。このプランクトンをひもに付着している微生物が分解するのですが、軽いひもを使うことで移動や点検が簡単になるといふメリットがあります。ソーラー発電により、本施設では年間約25%の省エネができたのだそうです。

貴重な種もすむ多自然型水路

実験フィールドを南北に流れる「多自然型水路」。望ましい河川環境づくりの基礎データを得るために、葉山





琵琶湖・淀川の 渇水状況



下流にも大きく影響する 琵琶湖の渇水

琵琶湖・淀川流域の渇水は、多くの場合、梅雨期から夏期にかけて酷暑・干天が続く、さらに台風が少なく秋雨前線の活動が弱いといった気象条件が重なる年に起こります。

琵琶湖流域の降水量は下流への流量の影響が大きく、特に淀川本川の渇水は琵琶湖流域の雨量に左右されます。近年では昭和48年、59年、61年、平成6年に渇水がおつています。最近では昨年・平成12年の夏、7～8月に琵琶湖流域で雨がほとんど降らない状態が続き、9月11日には最低水位マイナス97cmを記録しました。この最低水位は琵琶湖水位を計測して以来平成6年のマイナス123cm、昭和14年のマイナス103cmに次ぐ観測史上第3位の記録でした。

水辺の動植物にも悪影響が

渇水により、流域で初めて取水制限が行われたのは昭和48年の渇水時。最低水位マイナス123cmを記録した平成6年には20%の取水制限が行われました。

琵琶湖の水位が下がると、船の航行や漁業に支障が生じるほか、取水制限が行わ

琵琶湖開発事業の成果が

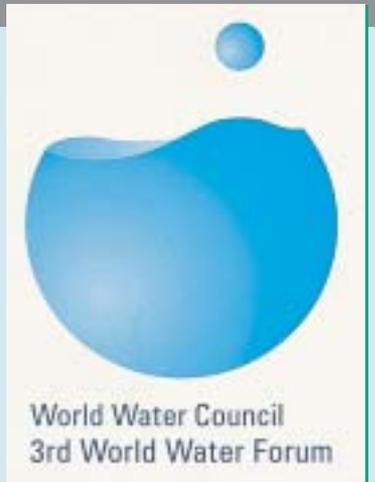
しかし近年は、琵琶湖開発事業として琵琶湖からの上水・農水等の取水対策等の湖水位低下対策が実施されており、琵琶湖を水源とする近畿圏においては過去の渇水と比較して取水制限日数は大幅に減っています。マイナス97cmの最低水位を記録した昨年の渇水でも取水制限は2日間

れると生活用水や工業用水が不足し、私たちの日常生活にも大きな影響します。また、琵琶湖・淀川水域にすむ生き物や水際の植物の生態環境へも影響が出るほか、琵琶湖岸の景観等も大きく損なわれます。

淀川水系の主な渇水状況

年	項目	琵琶湖水位 (cm)	取水制限日数
昭和48年		-54	7.31～11.4=97日
昭和52年		-58	8.26～翌1.6=134日
昭和53年		-73	9.1～翌2.8=161日
昭和59年		-95	10.8～翌3.12=156日
昭和61年		-88	10.17～翌2.10=117日
平成6年		-123	8.22～10.4=44日
平成12年		-97	9.9～9.18=10日

イベント告知



World Water Council
3rd World Water Forum

世界人口の増加に伴う水不足途上国を中心とした水質汚濁の問題、森林伐採が招く洪水時の流出量増大、21世紀を生きる私たちにとって水をめぐる問題は、国境を越えて誰もが考えていかなければならない、重要な課題です。

世界水フォーラムの最初は1997年モントリオールで、2回目は2000年にオランダの小グ(2000年)で、そしてその3回目の会合が1年半後の2003年3月に京都・滋賀・大阪で開かれようとしています。世界有数の古代湖・琵琶湖を擁する滋賀や、水の都として栄えてきた大阪など、淀川で結ばれた地域で世界の水問題を考えます。そしてこのフォーラムは、より多くの人々の参加を得て世界の人々の水問題に対する意識を高めることを目指しており、水問題に興味がある方なら誰でもフォーラムに参加できるシステムが用意されています。

ヴァーチャル フォーラム

インターネット上の仮想会議場が公開されています。簡単な手続きで傍聴したり自分の意見を発言することもできます。

世界 水フォーラムを ご存じですか

2003年 京都、滋賀、大阪で

”水の声”プロジェクト
世界水フォーラムの開催までの期間に、水の声”メッセジャー”として、世界の草の根レベルの水の現況や切実な要望、水の声”を集めてメッセージにするために、ボランティアとして世界中の声を集める方々を募集しています。

水に関するフェア
琵琶湖・淀川流域全体を会場と考え、開催地の人々と訪ねる人々と水を介して結びつけ、文化的イベントや歴史的な祭りを通じての交流を図り、多くの人々に水に関する様々なことを知ってもらい、行動を起こすキッカケとなることを目指し、水に関するフェアを開催します。

各種 イベント

世界水フォーラムに先立ち、講演会やシンポジウムその他各種イベントが行われており、誰でも参加できます。

さあ皆さんも身近な水について世界の水について一緒に考え、行動してみませんか。

第3回世界水フォーラム事務局
TEL:03 5212 1645
FAX:03 5212 1649
<http://www.worldwaterforum.org/jpn/>
第3回世界水フォーラム in 大阪
<http://www.pref.osaka.jp/osaka-pref/kasen/mizufor/index.htm>

琵琶湖・淀川の水辺を愛する活動



行われました。また、大阪の名物観光船をチャーターして、船上での講演会や簡易水質検査も行われ、これら催しを通じ、参加者それぞれ、その川や水を大切にしたいという思いを喚起しました。

琵琶湖・淀川水系を皆で考える（下流域（大阪）と上流域（滋賀）のボランティア団体が手を結んだ環境啓蒙イベント）
大阪市の中之島界隈のレジネーションや天神橋筋商店街の周辺住民などで構成する当会（代表 伴 一郎）が、当助成を得て行ったのは、体験学習を通じて琵琶湖・淀川水系を考えようというイベント。

昨年11月26日、天神橋南詰河川敷で開催されたイベントには、家族連れなど約100人が参加。琵琶湖の固有種瀬田シジミのみそ汁を試食したり、上流域・滋賀県のボランティア団体（アクアネット）と連携して、ヨシを使った「ミサカまくら」づくりなどが行われました。

琵琶湖・淀川水系の水環境改善事業

日野川水辺の会

近年、治水のための改修工事が進む一方で、生き物のすみかとして、また人々の親水の間としての存在が薄れつつある日野川（京都市）の水環境をより良いものにしていくという活動する澤井健二さん（摂南大学教授）は、日野川の水環境を改善するための「はぐくみ」構想・計画を京都市に提案し、ともに検討を続ける一方で、日野川の水質改善に賛同する人々に呼びかけ、日野川水辺の会を結成。清掃活動や自然観察会、シンポジウムへの参加など、



水と親しみ、水を守る多彩な活動を展開してきました。
今回、水質保全機構の助成を得て行われたのは、日野川の改修の歴史についての調査と生き物調査、水質調査、そして「はぐくみ」の模型実験など。生き物調査では、カワムツを中心に多数の生物の生息を確認。水質調査では、下水処理の大切さを再認識する結果となりました。また、模型実験の結果をもとに、日野川では「はぐくみ」構想の第一歩として、水辺の会メンバーの手により、「はぐくみ池」も作られました。

琵琶湖・淀川水系を考える会

『21世紀にむけた琵琶湖・淀川水系を皆で考える（下流域（大阪）と上流域（滋賀）のボランティア団体が手を結んだ環境啓蒙イベント）』

淀川愛好会

淀川流域水環境

交流会 in 日吉
「活かそう水辺、つなごう流れ」をキャッチフレーズに、琵琶湖・淀川の流域交流を進める同会。



当日助成を得て、京都府日吉町において、第1回目の流域水環境交流会を開催しました。

7月29日、30日の2日間に行われた交流会には、流域から約180人が参加。1日目の基調講演「青少年教育における水辺の役割」(財)ハートモイセンター理事長 大野重男氏)では、今の子どもたちに欠けている水辺での遊びについて、実践的な例が挙げられ、水辺の重要な役割が述べられました。また、パネルディスカッションでは、「地域文化の継承と流域交流」についての現状や意見交換が活発に行われました。そして2日目は、日吉タムの湖面でEボートという10人乗り手漕ぎカヌーを体験。流域の交流と連携をさらに深めました。

海外水環境保全事情

海外水環境保全事情



TV Aは上流のケンタッキーダムとパークレーダムの間、エリントンダムを設置し、生態系維持に努めています。生態系保護活動の輪はアラバマ北西部にも広がっています。アラバマ北西部の約250人が、生態系の悪化がみられるTV Aの4貯水池の水環境改善に立ち上がったのです。自らを「リトルアメリカプロジェクト」と名乗る彼らは、99年初めて連邦や州のエージェント調査を求め、結果、貯

釣りの悪影響改善に立ち上がる

水池に魚が減少していることがわかりました。以後彼らは、稚魚を保護し、さらに浅瀬の水温を低下させるために7000本ものイトスギなどを植栽し、湖畔林を作ったり、貯水池に魚の産卵礁を作ったりして魚の生息環境を豊かにするなどの施策を遂行してきました。近年のハマヤシヤドの増加は、彼らの尽力の賜物と言わざるを得ません。

このプロジェクトに関わるTV Aのシム・シド氏は、「プロジェクト完了までにはまだまだ時間が必要」としながらも、「このプロジェクトに関わるみんなは、魚の未来に投資しているのです。僕たちは、自らが植えた小さなイトスギが、いずれ20フィートにも成長していくことを既に知っている。その利益は僕たちの孫の代になってやっと得られるものかもしれませんが」と話します。

テネシー川(アメリカ)の未来のために...

テネシー川流域開発公社 / リトルバリアンプロジェクト

電力売上で予算を捻出



関、テネシー川流域の水運改善、治水管理、ダム建設などによる電力開発と適切な土地運用を行っています。

二丁クなのは、公共の行政機関であるにもかかわらず、税金を使わないという点、TV Aの予算は電力の売上が元になっているのです。

水辺からのメッセージ

京都

「世界水フォーラム 市民ネットワーク」が京都で発足

京都・滋賀・大阪のNGOグループによる
第3回世界水フォーラムに向けたNGOのネットワーク組織である
「世界水フォーラム市民ネットワーク」が京都で発足しました。



平成15年3月16日から23日にかけて京都・大阪・滋賀の琵琶湖・淀川流域で開催される「第3回世界水フォーラム」は、現在世界各地で起きている水の汚染・水資源の枯渇、大洪水などの水問題に対して、その解決を図ることが世界的に求められている中で開催されるものです。一方、日本においては、20世紀の激進な都市化に対応すべく行ってきた水資源開発や治水の過程において発生した水環境問題に対して、現在様々な改善の取り組みがされていますが、この機会に水問題について日本人が考え直して見る必要があると思われま

す。そうした中、水を巡る様々な問題について考え、市民の水に対する関心をさらに高めようとする市民セクターの動きが生まれていきます。平成13年10月8日に京都で発足した「世界水フォーラム市民ネットワーク」(代表理事 新川達郎同志社大学大学院教授)はそうした動きの中、市民サイドのネットワーク組織として発足したものであり、フォーラムやワークショップなど様々な市民参加のプロジェクトを通じて市民の水環境に対する関心を高めていくことをしています。

このように流域住民が自ら主体的に水について考え、行動していく上で、非常に重要なことであり、また今回の「第3回世界水フォーラム」は琵琶湖・淀川流域で開催されるため、流域全体の盛り上げが求められており、市民レベルでの動きをサポートしていくためにも、流域行政機関と(財)琵琶湖・淀川水質保全機構が連携した取り組みを進めていく必要があると思えます。(企画環境部企画総務課)

BYQ-Net Meeting

Net Communication!

(財)琵琶湖・淀川水質保全機構 賛助会員 (50音順)

みんなで語ろう 琵琶湖・淀川・水環境

琵琶湖・淀川の水環境情報やイベント情報をお届けしている当機構のホームページに、いつもたくさんのアクセスをいただき、ありがとうございます。

先ごろ開設した「BYQ-Net Meeting 琵琶湖と淀川の水環境を語る会議室」にも、みなさんからたくさんの声を届けていただいています。最近の話題としては、ブラックバスやブルーギルといった外来魚の話題や、湖水の富栄養化や赤潮の問題...などなど。これらネットミーティングをさらに深めて、みなさんの声を今後の水質保全対策に反映させていけたらと考えています。どうぞ、お気軽にアクセスしてみてください。

<http://www.byq.or.jp/bbs/>

水風井 さんからのコメント

(2001年 01月 23日 火曜日 18:13:55)

Aさんへ

海で発生する赤潮は、ハマチの養殖に大きな被害を与えることで聞いたことがあると思いますが、淡水である琵琶湖でも発生します。原因は植物性プランクトンであるウログレナ・アメリアーナが大量に発生

A さんからのコメント

(2001年 01月 23日 火曜日 13:40:09)

赤潮ってどうして起こるの？
あおこって何？

して起こります。琵琶湖では毎年4月から6月初めにかけて、水温が15度から20度の時に発生します。湖水が赤褐色に変色し、生臭臭を伴います。

アオコは、赤潮と同じように植物性プランクトンのアナベナ、ミクロキスティスと呼ばれるものが大量発生して、水面が緑色のベンキを流したようになります。皆さんの家の近くの池でも、池が緑色した小さなツブ状のものが、筆でなぞったような現象を見たことがあると思います。それがアオコです。なぜかミドリコと言わないです。最近の交通信号のアオは本当にミドリではなくアオですが。

釣りに行こうさんからのコメント

(2001年 09月 21日 金曜日 15:36:10)

9月30日の日曜日ですね。楽しみながら琵琶湖を救えたら嬉しいですね。楽しむばかりが先行してしまうと、私たちの大切な琵琶湖が泣く結果になってしまいますが...釣った魚はどうする予定なのでしょう？ブルーギルは養鶏の飼料として利用されていると聞いたことがあります。

- ・(株)アイ・エヌ・イー関西支店
 - ・(株)アクアテルス琵琶湖事業部
 - ・(株)アスコ
 - ・(株)アーバン・エース
 - ・(株)和技研
 - ・(株)環境科学コーポレーション関西事業所
 - ・近畿技術コンサルタンツ(株)
 - ・(株)クリアス
 - ・(株)建設環境研究所
 - ・(株)建設技術研究所大阪支社
 - ・国際航業(株)関西事業本部
 - ・国土環境(株)
 - ・滋賀県下水道保全事業協同組合
 - ・(株)修成建設コンサルタンツ
 - ・(株)新洲
 - ・帯人エコ・サイエンス(株)
 - ・(株)東京建設コンサルタント関西支店
 - ・東洋電化工業(株)
 - ・(株)トップエコロジー
 - ・(株)西日本技術コンサルタント
 - ・(株)日建設シビル
 - ・(株)日水コン
 - ・日本建設コンサルタント(株)大阪支社
 - ・日本工営(株)大阪支店
 - ・日本パイリーン(株)
 - ・日本メンテナンスエンジニアリング(株)
 - ・(株)ニュージェック
 - ・パンフィックコンサルタンツ(株)大阪本社
 - ・八千代エンジニアリング(株)大阪支店
 - ・(株)ユニチカ環境技術センター
- 計30社(含入会申込企業)

編集後記

今回特集した「成果発表会」では琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センターで取り組んでいる水質浄化実験の成果を多くの人に紹介することができ、翌日の「見学会」でさらに理解を深めて頂けたと思います。今後水環境を皆さんと一緒に考えていける機構でありたいと願っております。イベント等の際は是非ご参加ください。



財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構
Lake Biwa-Yodo River Water Quality
Preservation Organization

(財)琵琶湖・淀川水質保全機構は、淀川水系における河川・湖沼水の水質浄化技術及びこれに関連する技術に関する研究開発、水質浄化事業の支援等を行うことにより、淀川水系の水質保全に寄与し、もって潤いのある地域社会の形成と、関係住民の生活環境の向上に資することを目的としています。